

タイトル「ひにいだかれて」

ヒョーヒャーヒャ（ヒーハイヒョー）

ヒョールイヒョーヒョー（ヒーハイヒョー）

煎餅は骨の碎ける音がする 焼かれしものの狼煙が昇る

白煙は雲に馴染んで忘れなさい忘れなさいと風の空耳

この灰の どの粒だろう永遠の愛を誓ったはずの唇

焼け落ちたとて残るもの土にすら帰らざる骨 千二百度の

ヒョーヒャーヒャ（ヒーハイヒョー）

それはこの山だった岩 岩だった石 石だった土の羊水

泥濘を練る少しずつ丸くなるとても静かな胎児の寝顔

よこしまを押し出すようにゆっくりと沈むゆびさき祈りにも似て

極小の地球と思う引力を馴染ませるよう回すろくろは

てのひらをざらりと撫ぜる鉄の匂い 機銃の音も知らないままに

ヒョーヒャーヒャ（ヒーハイヒョー）

起立とは抗うことでかなしみに押し潰されぬ形をさがす

あの山にちらちら見ゆるは 月か星かほたるか

登り窯ただ伏して待つこの地にもかつて戦火があつたと聞いた

礼拝のようにあるいは胎内のように並べられし子どもたち

赤松の脂を食らい窯は鳴くごうごうと面影が重なる

やがて火は届くだろうか声のない叫びを連れて千二百度の

「ああそれ……セラミック化するんですよ」 「ほら、とても固いでしょう」

黒煙は山の彼方へ燃え切れない思いを土に青く遺して

焼け落ちたとて残るもの火の中で産み落とされしからだ 立つための

火と灰と土と私となぜだろう太陽の子のように光って

冷えゆけば宿りし鉄の青さすらあなたを美しく見せたのだ

ヒョーヒャーヒャ（ヒーヒャイヒョー）

それはこの山だった岩 岩だった石 石だった土のうつわ

触れられないものに触れますように きれいなお茶が入りましたよ

月ならば拝みあげましょ 蜚ならばお手に取る

白煙が雲に馴染んで ああそうか いなくなってもここにいるのか

火を抱いて産まれしうつわに生かされて火に抱かれ逝く たかが百年

リーリユーリ（リーリユーリー）

トートーヘイコー（カーカイサー）

トーヒヤイヒヤイノー（ヒヤイヒヤイヒヤイ）

ヒョールイヒョーヒョー（ヒーヒヤイヒョー）

ヒョーヒャーヒャ（ヒーヒヤイヒョー）

百年をつみ重ねましょ この土地の地層となつてまた逢う日まで